

普及技術

平成21年度

新たに開発したエノキタケ「雪ぼうし3号」		
[要約] エノキタケの新品種「雪ぼうし3号」は、菌掻き後の菌糸再生が均一で、「雪ぼうし2号」と比べて、発芽時の乾燥に強いという特徴がある。		
森林研究所 きのこ・特産課	連絡先	TEL：0254-72-1173 FAX：0254-72-0019

[背景・ねらい]

当県は全国第二位のエノキタケ生産県であるが、企業等で開発された品種に頼っているのが現状である。

そのため、交配を中心とした育種試験により優良品種の開発を行っており、平成20年に「雪ぼうし2号」を品種登録した。しかし、栽培者からは、より栽培管理が容易な種菌の開発を望まれている。

そこで、さらに育種試験を進めた結果、「雪ぼうし3号」を選抜した。

[成果の内容・特徴]

- 1 エノキタケ「雪ぼうし3号」は、「雪ぼうし2号」(平成20年品種登録)と比較的栽培管理が容易な「TK」を母材料として作出された、施設栽培向きの純白品種である。
- 2 「雪ぼうし2号」に比べ、菌掻き後の菌糸再生が均一で、発芽時の乾燥に強くなり、発芽時の管理が容易になった(写真1)。
- 3 収量、栽培日数は「雪ぼうし2号」と同程度である(図1)。
- 4 形質は「雪ぼうし2号」と同程度である(表1)。
- 5 委託栽培を行ったところ、「雪ぼうし2号」よりも栽培管理が容易であるという評価を得た。

[成果の活用面・留意点]

- 1 「雪ぼうし3号」は「雪ぼうし2号」と同様に、発芽時における換気が重要である。発芽工程では室内のCO₂濃度がまんべんなく2,000ppm以下となるように換気と空気の攪拌を行う必要がある。
- 2 高温培養ではムレ症状が発生する可能性がある(表2)。
ムレ症状：培養時の高温障害のことで、発芽不良の原因となる。
- 3 平成21年4月に品種登録出願した。

〔具体的なデータ〕

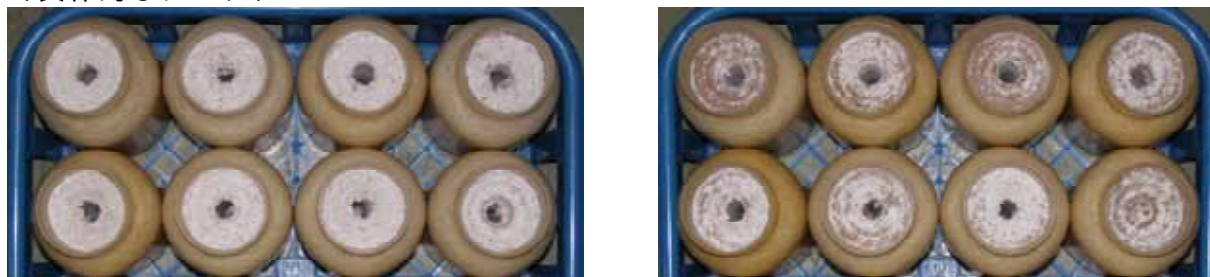


写真1 菌掻き後8日目の雪ぼうし3号(左)と雪ぼうし2号(右)

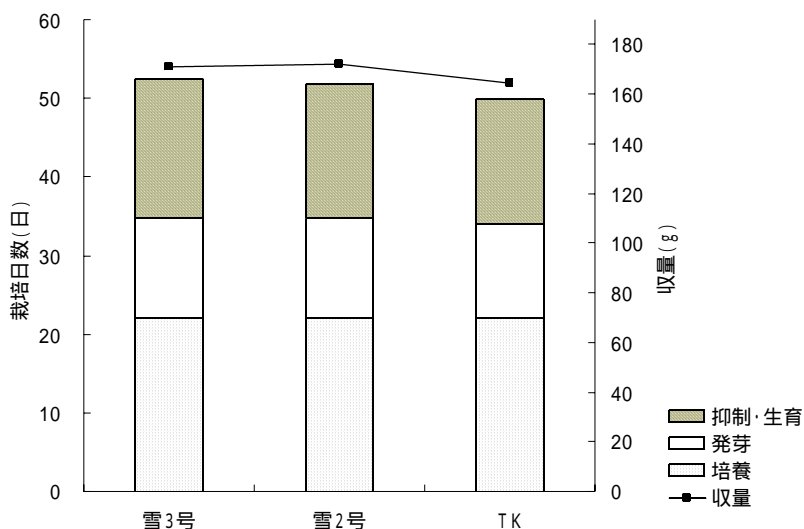


図1 栽培日数と収量（種苗法に基づく特性調査方法による850ml瓶での栽培事例）

表1 形質に関する主な特性（種苗法に基づく特性調査結果）

品種	菌傘 (mm)			菌柄		有効茎数 (本)
	形態	直径	高さ	断面の形態(出現頻度、%)	太さ(mm)	
雪ぼうし3号	丸山型	12	6.5	円(32.3)、楕円(55.7)、長楕円(12.0)	3.5	463
雪ぼうし2号	丸山型	12	6.3	円(24.3)、楕円(66.7)、長楕円(9.0)	3.6	457
TK	丸山型	10	5.6	円(57.7)、楕円(36.7)、長楕円(5.7)	3.0	662

表2 ムレ症状によるロス率（川口町で行った高温培養事例）

	栽培本数	ムレ症状(本)	ロス率(%)
雪ぼうし3号	1536	426	27.7
雪ぼうし2号	512	160	31.3

〔その他〕

研究課題名：エノキタケ、ナメコの高品質品種の開発とその栽培技術の開発

予算区分：国補

研究期間：平成16～20年度

発表論文等：新潟森林研究所研究報告第50号（2009）